

# 阿蘇谷の誕生

何万年もの大昔、阿蘇山は今よりもっと大きく、大噴火を繰り返す恐ろしい山でした。

そのうち、地中は噴火のために空っぽとなり、とうとう大陥没を起こしてしまいます。

この時、残ったそ野は今の大輪山となり、阿蘇谷は大きな湖となりました。

それから時が過ぎ、阿蘇開拓の任を命じられた阿蘇大明神 健磐龍命は

この湖をご覧になり、中の水を干して田畑にする事をお考えになりました。

力に自身のあつた健磐龍命は外輪山の一角を思いきり

蹴つてみますが、山の壁は硬く、崩れる気配はありません。

ここは火口壁が二重となつていて、一番頑丈な所だったのです。

今の一重峰と呼ばれる場所です。

あきらめた健磐龍命は、今の立野の北側にまわりました。

そこで「えいっ」とひと蹴りすると壁に大きな裂け目ができ、

湖の水は勢いよく西に流れだしたのです。

今、この数鹿流ヶ滝は健磐龍命が蹴り破られた場所、

湖から流れ出した水は白川となり、今に至るとか…。

以来、白川の流れは阿蘇の大きいなる恵みを運び、

流域の地を育み続けています。

そして今、健磐龍命が立野ダムが誕生します。

流域の暮らしを守るこのダムを

蹴り破った地に

この神様が天から温かく見守っているかもしません。

白川の源流であり、九州中部を流れる幾つもの河川の源、阿蘇の湧水。

古代より日本有数の多雨地域である阿蘇一帯に降り注がれた雨は大地へとしみ込み、何万年もの長い年月をかけて生命を育む豊かな湧水となりました。

阿蘇の厳しい環境の中で畜産や農業を営んできた人々を潤し続ける水源には自然に対する尊敬と感謝の念を込め

多くの神々が祀られています。ここに興味を引く説があります。山の火を鎮め、水を支配する阿蘇大明神、健磐龍命を祀る

阿蘇神社(一の宮町)と、その御子速瓶玉命を祀る国造神社(一の宮町)、そして阿蘇五岳の最高峰である高岳、白川の源泉である白川水源(白水村)、そして清水寺(久木野村)までは

一本の直線で結ばれ、「聖線」と呼ばれます。

そして、阿蘇神社はこの聖線の中心に建築されていると言うのです。

現在のような詳しい地図や地形を調べる機会を持たない古代の人々が、この「線」をどのように知り得たのか興味は尽きません。

私たちの祖先はこの「聖線」に莊厳な龍の姿を見ていたのかもしません。